

(1) 日常に感謝の念を

東日本巨大地震からほぼ一週間たった新宿のデパ地下を歩いて来ました。何処も常普段からみると7～8割程度の人の流れでしたが、いつもの買物をエンジョイするような漫ろ歩きの風情は感じられませんでした。華やかに彩られた菓子・スイーツなどのコーナーや惣菜売場などでは手持無沙汰な店員の所在なげな立居も見られる一方で、米穀類や保存食材の棚は殆どが空になってお断りのビラだけが侘し気に貼られていました。生鮮品売場は少なめの品揃えながらも普段通りの賑わいをみせていますが、貯蔵が出来る馬鈴薯やタマネギ、人参などと手間ひまのかからないモヤシや納豆などの売れ行きが良いようです。

震災直後のパニック状態が一段落した消費者には福島原発の事故による計画停電の混乱とガソリン不足などの情報が生活必需品の供給不安を掻き立て、当座の食料確保に走ろうとの心理が買い溜め行動を起し、結果的に品薄商品をも生み出したのではないのでしょうか。道路や線路が寸断された状況で東北・北海道と首都圏の間の物流については当分の間混乱は続くでしょうが、被災された地域以外でのそれは不都合なことは防げるでしょう。今までも天候災害などで交通網の乱れの経験はある筈です。我慢すべき時はじっと我慢することも才覚の一つではないのでしょうか。

農産物に関してみれば、潰滅的な被害を受けた東北地方は夏秋期野菜を一手に引き受ける地域だけに今後の生産・出荷が如何になるか大いに心配されることでしょう。特に宮城・福島に茨城を加えた各県は主要品目夫々の位置付けが高いだけに、影響は極めて大きなものとならざるを得ないのではないのでしょうか。放射能汚染の怖れが多い浜通りや中通りの地域での産物はどうなるのでしょうか。今も大切ですが、梅雨明け以後の盛夏期における野菜たちに思いを馳せる時、身勝手な消費行動を抑えることを反芻せざるを得ません。

街に住んでいる者は、いつでも何処でも欲しいときに欲しいだけのモノが手に入る恵まれた環境を当たり前のこととして生活しています。それだけに日常生活では余分なものの買い置きをしない生活に慣れすぎています。そして非常事態に立ち至った際に動揺して付和雷同した行動をとってしまったのでしょうか。改めて日頃の生活を反省し生きる喜びを感謝すべきではないのでしょうか。

(鈴木重雄筆)